

えんがわ

第94号

2015年1月発行

発行元 衣笠病院グループ
衣笠須賀市小矢部
2-23-1
Tel 046-852-1182

感謝ばかり

その男性はがん末期で在宅療養していました。私たちが行くと、いつも感謝の言葉ばかり出てきました。スタッフが訪問すると「今日も顔見せてくれてありがとう」。奥様には「いつも居てくれてありがとう」。痛みがあり薬を増やしたら「薬増やしてくれてありがとう」。自分振り返ると、大した辛いこともない状況で、感謝と文句のゴチャ混ぜで考えていることがいかにも多いのだろうと思います。

ある少女が、世界の七不思議は何ですかと授業中に聞かれて、「①見えること②聞こえること③手の感触

④味覚⑤感情があること⑥覚えること⑦愛せること」と答えました。少女にとつてあたりまえのことが本当に不思議で、感謝すべきことでした。感謝ばかりの患者さんにとつても、同じようにあたりまえの生活が、感謝することでした。

病院や在宅で、病気や障がいがありながら「感謝ばかり」の人に出会うことがあります。そのとき私は「青い鳥」に気づかされます。生活の中にこそ、驚くこと、感謝すること、幸せなことがたくさんつまっています。



湘南国際村クリニック

医師 大友 宣

えんがわ在宅 ひとくちメモ さすいただきますか？

最近の日本語に於いて、「させていただけます」と言う表現の多用が、少し気になります。文法的な誤りとの指摘も多く目にしますが、すっかり定着してしまつた感があります。個人的には丁寧過ぎて、時にやや卑屈な印象を覚えます。ところどころで先日、駅の階段で高齢女性に声をかけ、担ぎ下ろそうとしていたキャリーバッグの運搬を手伝いました。大変喜んで下さつたのですが、お礼の言葉があまりにも丁寧過ぎて、多少の戸惑いを感じました。例えばヨーロッパでは、高齢と限らず女性が荷物を持つのを手伝ったり、網棚に

カバンを上げるのを手伝うのは日常茶飯事のこと、ごく当たり前のことです。

介護保険の施行後、随分変わってきたとはいえ、日本の社会はまだまだ権利意識が確立しておらず、サービスの受け手側が萎縮していることが多いようです。

サービスを提供する側も受け手側も、当然の意識の下に、はつきりと自分の意向をやり取りし、その上で自然な感謝の表現が出来るような、そんな関係作りを心掛けられればと思つています。

衣笠ホーム
生活相談部主任 渡邊 雅



皆様と共に過ごせることを感謝します。本年も衣笠病院グループをどうぞよろしくお願い致します。